

9月のお代官様～旅の宿

浴衣の君はススキのかんざし、熱燗徳利の首つまんで、
もう一杯いかがなんて、妙に色っぽいな

あんた日本酒飲めんし、お泊り言うても浴衣着ずに、ステテコとTシャツで寝てるやろ・・・などと突っ込まない。ともかく、旅が好きで、お仕事で出張しても、客先訪問に合わせて、周辺散策、神社仏閣巡拝、美味しいものも探して、美女はいずこ。高松では、厚生年金会館(現・パールガーデン)がお気に入りです、5連泊なんて行程もありました。今は、総務のお兄さんとして事務所を守っていますので、お昼休みに中津・大淀を散策する程度しか活動していません。その反動で、バドミントンの練習が無い時とか、連休、有休消化などで個人的に、湯めぐり、城めぐり、グルメ旅など門真を離れてプチ旅行しています。今回は、夏旅から3か所ほど旅の宿を紹介してみたいと思っています。



1. えびす(和歌山・串本)

旅館「えびす」の夕食は、囲炉裏で焼く熊野牛コース。地元の海のもの、山のを合わせた前菜の盛り合わせ9点からスタートして、勝浦漁港にあがってきたマグロのお刺身、赤身がうまい熊野牛を炭火で焼いて、お宿の至宝のロールキャベツからの手打ち蕎麦で締めるという贅沢三昧。ビールで乾杯、紀州梅の梅酒ロックを飲んで、余は満足であります。



和歌山は、早朝に出発しないと湯浅御坊道路が混雑するという問題がありますが、今回は、那智の滝、青岸渡寺を見学して、勝浦のホテル浦島で、お風呂めぐり。忘帰洞という太平洋に面した露天洞窟風呂が気持ち良くて、身体がふにゃふにゃ、ええ感じです。陸続きではありますが、船に乗ってお宿へ渡ると、冒険している気分になりますね。



翌日はウオータージェット船で瀨峡巡りからの、浦島から山腹に見えた「卍」を探しに。妙法山阿弥陀寺というお寺で、苔むす階段を登って奥の院に到達。大汗かいて下山。山上より勝浦の街並み、ホテル浦島のある島並みを展望して、串本のえびすに移動しました。

最終日は、天気が優れず、すさみの「エビとカニの水族館」を見学、白浜の「とれとれ市場」でランチして帰るという行程でした。(8月13日～15日)



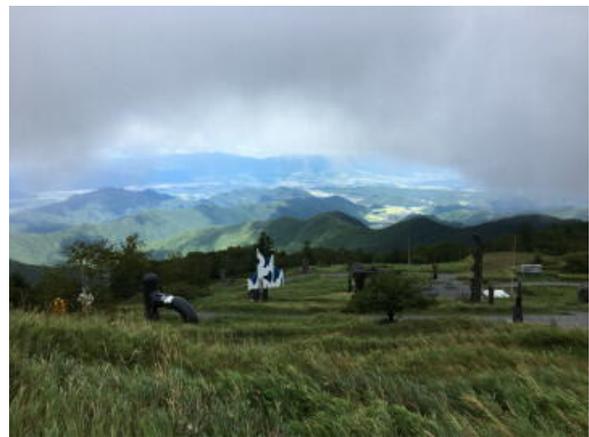
2. いかりや町田民宿(長野・奈良井)

菅平ツアーの初日は、中山道の宿場町を歩いてみました。大阪で暮らしていると、街道と言えば、高野街道とか熊野古道あたりの神社仏閣を目指す道しか思い浮かぶのですが、東京基準だと、徳川家康が全国支配目的で整備したインフラとしての五街道を示すようです。今回は、山道に連なる石畳の宿場町の馬籠と川沿いに宿場町が並ぶ妻籠を散策、江戸時代にタイムスリップしたような街並みが1km続く奈良井宿を探検。初日のお宿は、「いかりや町田」民宿をセレクト。奈良井宿のど真ん中であって、古い建物をリノベーション。風情ある木戸をくぐると奥深く、京都の鰻の寝床みたいな奥座敷で宿泊です。夕食の目玉は馬刺しと鮎の塩焼き。野菜が美味しく感じるのは信州の土が良いからでしょうか。朝食には、アマゴの甘露煮が添えられて、中山道に行く旅の人へのお接待として大いに満足です。但し、各部屋にクーラーとテレビが備え付けてないのが欠点ですが、夜は窓を開けると寒いぐらいの気温で、各部屋にテレビを備えるとテレビの数だけケーブルテレビの受信契約料が必要になるそうで、撤去したそうです。まあ、テレビの無い休日も格別で、風情を楽しむには、最高のお宿です。(8月23日)



3. いずみや(長野・鹿教湯温泉)

菅平ツアー2日目は、天気の関係で方針変更、高原からの展望、長野の2000m級の風景を満喫しようと、霧ヶ峰からピーナスラインで美ヶ原へ高原ドライブ・・・って、下界が晴れていても霧で景色が見えません。ともかくアートを楽しもうと美ヶ原高原美術館に入場。斜面に居並ぶ構築物は何じゃろか？高山植物も小さいものばかりで、特定するのが困難で、ゆっくりしていたら突然の降雨で避難。山の天気は、わかりません。ゆえに、日本晴れの日にもう一度、美ヶ原に登ろうと思っています。



この日のお宿は、鹿教湯温泉の「いずみや」を選択。お湯が沸いている場所を鹿が教えてくれたから、「鹿教湯」で旅館内の内風呂、野天風呂も最高に気持ち良いけど、外湯の文殊の湯も素敵です。湯治客向けのひなびた温泉ですが、ほっこりする最高の場所です。関西や四国に無い魅力で、「菅平前日はココ」と決めても良いほどのパラダイスです。



この旅のメインは菅平で、京都産業大学ラグビー部の合宿の練習試合を観戦することですが、せっかく遠いところまで足を伸ばしたので、街道めぐり、湯めぐり、城めぐりと信州を満喫してきました。(8月24日～26日)



平成30年9月12日記

[トップ](#)
[戻る](#)

[10月のお代官様～徳島大人の遠足](#)